

改訂版・読解はかせ（上） 主な変更内容 （2026年2月発行）

〔全般〕

- ・小4以降で習得する漢字にルビ振り。
- ・発刊当時からの経年による変化，また統計資料や情報の更新などに応じた修正。
- ・本体・解答とも，統計資料等は2025年現在で確認が可能なものに更新。
- ・目次での項目，「調べる内容」を「研究」に変更。（本文と統一）
- ・解答集では，「研究」の解説を中心に，最新の情報を反映。
- ・本体の背表紙下部に，改訂版とわかる●印と●印の上に―（横棒）印を配置。
- ・本文を96pから本文98pに変更。（裏表紙ウラを解答に使用せず，本文用紙を1枚挿入。下巻（内容変更なし）も仕様は統一。下巻の仕様変更版は背表紙下部●印の下に―印を配置）

〔単元別〕 ※以下は，主な変更内容です。（旧版→改訂版）

★題材の差し替え

「28 ロケットはどうやって運ぶの？」→「28 ご石の白はハマグリって本当なの？」

〈研究〉種子島について→〈研究〉宮崎県日向市，三重県熊野市

〈ことばの学習〉「造る」「作る」のちがいを→〈ことばの学習〉「造る」と「作る」のちがいを

※p.62-63は新規作成

「31 性転かんする魚がいるって、本当なの？」→「31 つのがあるクジラがいるって本当なの？」

〈研究〉淡水魚と海水魚→〈研究〉海水魚と淡水魚

〈ことばの学習〉「かわる」の同音異義語→〈ことばの学習〉「たぐい」の漢字や意味

※p.68-69は新規作成

★題名の変更（タイトルのみ）

「18 ナマケモノの名前の由来は？」→「18 ナマケモノは本当になまけているの？」

「45 スペース・コロニーって何なの？」→「45 スペースコロニーって何なの？」

「17」〈ことばの学習〉『しんにようの漢字』の漢字→『近』の部首名

「1 きんちょうすると、オシッコがしたくなるのはなぜ？」の単元

(本文)

「(オシッコの量は、大人の場合で) 三五〇ミリリットルくらい」

→「二〇〇～三〇〇ミリリットルくらい」

「(ぼうこうにためられる量は、ふつうの大人の人で) 八〇〇ミリリットルくらい」

→「六〇〇ミリリットルくらい」

「7 おふろに長くつかると、しわができるのはなぜ？」の単元

(ことばの学習)

音や声をまねて表したことばを擬音語といいます。「しわしわ」は「しわ」が二回くり返されてできたことばです。このように、同じ音が二回くり返されてできている擬音語を探してみましよう。

↓

音や声をまねて表したことばを擬音語といい、何かの様子や動きを表したことばを擬態語といいます。「しわしわ」は「しわ」が二回くり返されてできた擬態語です。このように、同じ音が二回くり返されてできている擬音語や擬態語を探してみましよう。

「10 目の色のちがいは何で決まるの？」の単元

(本文)

「黄色人種」→「アジア系の人々」

「外国」→「欧米」

「また、視力そのものも、青い目をした人より、黒やこい茶の目をした人のほうがよいのです。」

→「ちなみに、青い目の人にとっては、日本の家の照明は明るすぎると感じることもあるようです。」

(設問)

問6

「視力は、アメリカ人と日本人とではどちらが良いと考えられますか。」

→「青い目の人にとっては、何が「明るすぎる」と感じるのですか。文章中からぬき出して答えなさい。」

「11 温度の感じ方は何で決まるの？」の単元

(設問)

問5

「その段落の初めの三字を次から選び、記号で答えなさい。」

→「その段落の初めの四字(句読点なども一字に数える)を次から選び、記号で答えなさい。」

(選択肢)

ア 最近で イ 暑い熱 ウ つまり エ また同
→ア 最近では イ 暑い(熱 ウ つまり、 エ また、同

「13 おいしそうなものを見ると、つばが出るのはなぜ？」の単元

(本文)

「すると、食べ物がないのに、犬の胃の中に胃液がたまったのです。」
→「すると、食べ物がないのに、犬の口からつばが出てくるのが確認されたのです。」

「16 オナラがくさいのはなぜ？」の単元

(本文)

「腸の中の細きんは、乳酸きんとふ敗きんの二つに分けることができます。乳酸きんは、炭水化物を分解しますが、くさいにおいの元になるようなものは、作りません。

これに対して主にタンパク質を分解するふ敗きんは、アンモニア、インドール、スカトール、メルカプタン、りゅう化水素といった、とてもくさいものを作り出します。」

→「腸の中の細きんは、いわゆる善玉きんと悪玉きん、それ以外のきんの三つに分けることができます。善玉きんは主に、炭水化物を分解しますが、くさいにおいの元になるようなものは、作りません。

これに対して主にタンパク質を分解する悪玉きんは、アンモニア、インドール、スカトール、二酸化いおう、りゅう化水素といった、とてもくさいものを作り出します。」

(注釈の追加)

「善玉きん、悪玉きんというのは、同じような働きをするきんをまとめた呼び名です。善玉きんではビフィズスきんや乳酸きんが、悪玉きんではウェルシュきんが有名です。」

「21 鳥の目にはカーテンがあるって本当なの？」の単元

(本文)

「しかし残念ながら、この便利なしゅんまくは、人間などのほにゅう類にはありません。」
→「しかし残念ながら、この便利なしゅんまくは、私たち人間にはありません。同じホニユウ類では、ラクダにしゅんまくがあり、砂漠の砂嵐から目を守っています。」

「24 すもうの土俵の大きさは、どうやって決めたの？」の単元

(本文)

「職業としてのおすもうさんが現れたのは、室町時代の中ごろ」
→「職業としてのおすもうさんが現れたのは、室町時代の後期」
「土俵に使われる土は、むかしは東京の荒川ぞいにあった荒木田原という場所でとれるものが、荒木田とよばれ、最高とされました。最近では、荒木田はほとんどとれないため、

両国の新国技館では、茨城県の利根川上流の土を使っています。土俵に必要な土の量は、およそ四〇トンです。」

→「土俵に使われる土は、もともとは東京の荒川ぞいにあった荒木田原という場所でとれるものが、荒木田と呼ばれ、最高とされました。最近では、東京で荒木田はほとんどとれないため、両国の国技館では、埼玉県の荒川上流の土を使っています。土俵に必要な土の量は、およそ四十トンです。」

(注釈の追加)

「やがて、荒木田原でとれていたものと同じ特性をもつ土のことも、荒木田と呼ぶようになりました。埼玉県産のこの土も荒木田です。ねばり気があり、すべりにくいため、土俵づくりに適しています。」

「26 スプレーかんの底が丸くへこんでいるのはなぜ？」の単元

(本文)

「ヘアスプレー」→「ヘアスプレー (整はつぎい)」

「かみのセットローション」→「整はつぎい」

「スプレーの中身を使い終わっても、かんの中にはまだガスが残っています。(中略) かんに穴を開けて捨てるのがいいともいわれますが、危険な作業なので大人にまかせましょう。」

→「スプレーの中身を使い終わっても、かんの中にはガスが残っていることがあります。(中略) かんの捨て方は地域によって異なるので、みなさんも一度確かめてみましょう。」

「また、スプレーかんにふくまれるフロンガスは、オゾン層を破かいするとして、現在、大問題になっています。いずれは、世界的に一切の使用が禁止になります。」

→「また、スプレーに使われていたガスのフロンは、オゾン層を破かいするとして、大問題になりました。そのため、その後の世界的な会議で、フロンは一切の使用が禁止されることになりました。」

(注釈の追加)

「ここでのフロンとは、オゾン層を破かいする「特定フロン」と呼ばれるものを指しています。」

「27 新聞紙の上下がギザギザになっているのはなぜ？」の単元

(本文)

「さいほうで使われるピンキングばさみで切ったような切り目です。これは、新聞の印刷をする輪転機につけてあるさいだん用の刃が、ピンキングばさみのようにギザギザになっているからです。」

→「まるで、のこぎりの刃の形のような切り口です。これは、新聞の印刷をする輪転機につけてあるさいだん用の刃が、のこぎりのようにギザギザになっているからです。」

「今も時代劇に、このかわらばんがでてきますが、これはかわらと同じ材料を原版にしていたところからきています。もちろんギザギザはありませんでした。」

→「これは、かわらのように焼いたものを原版にしていたからだといわれています。しかし、実際には木の版が多く使われていたようです。もちろん、かわらばんにギザギザはありませんでした。」

「29 魚も眠るって本当なの？」の単元

(本文)

「イトベラやニジベラなど」→「イトベラやカミナリベラなど」

「35 ライオンは、何のためにほえるの？」の単元

(本文)

「ライオンもネコも同じネコ科の動物ですが、ネコとちがってライオンの舌には、なんと舌骨という骨があります。このため、ネコなどよりも低い声でほえることができます。」

→「ライオンもネコも同じネコ科の動物で、のどのあたりに舌骨という骨があるのですが、ネコとちがってライオンの舌骨には、ばねのようなやわらかい部分があります。このため、ライオンは低い声でほえることができます。さらに、ライオンののどには、きん肉でできた声帯がありますが、この声帯が長く、分厚いことも、低い声を出せる理由のようです。」

「36 恐竜がほろびたのはなぜ？」の単元

(本文)

「恐竜はその後、一億五千万年ものあいだ、地球の支配者として君りんしました。」

→「恐竜はその後、一億六千万年ものあいだ、地球の支配者として君臨しました。」

「大きな恐竜になると、三階だてのビルくらいの巨大な体をしていたといわれます。」

→「大きな恐竜になると、七階だてのビルくらいの巨大な体をしていたといわれます。」

「今から六千五百万年ほど前、地球はしだいに気温が下がり、寒くなっていきました。そして植物がかれ始めると、小型の草食恐竜がどんどん減って、それを食べるけものりゅうのえさもなくなっていったのです。そのうえ恐竜は、は虫類ですから、気温の変化によって体温が変わります。気温が下がるにつれて、体温も下がり、体が弱ってしまったのです。」

また、七千万年ほど前には、ホニユウ類が現れていました。これらのホニユウ類は、気温に関係なく、体温を一定に保てたので、寒くてもどんどん増えていきました。そして、恐竜の卵をぬすんで食べたので、恐竜はさらに減っていったのです。」

→「今から六千六百万年ほど前、直径が十キロメートルもある巨大な隕石が、地球にぶつかりました。そのときのエネルギーは、とてつもなく大きいものでした。すさまじい熱やほのお、大きな波などで、そのころ、地球上にいた多くの動物がほろびたのです。なんとか生き延びることができた動物たちにとっても、その後は大変でした。隕石のしょうとつで大

量のちりが空高くまい上がり、日光がさえぎられたのです。地球の気温は大きく下がり、寒くなっていきました。そして植物がかれ始め、育たなくなると、小型の草食恐竜がどんどん減って、それをエサにするけものりゅうも生きていけなくなったのです。このようにして、恐竜は絶めつへと追いやられました。

ただし、現在、私たちが目にする鳥類は、当時の恐竜から進化したものだと考えられています。」

(設問)

問4

「七千万年ほど前には、ホニウ類が現れて、寒くてもどんどん増えていきましたが、それはなぜですか。文章中から二十字以内でぬき出して答えなさい」

→「恐竜は絶めつしましたが、恐竜から進化したとされる動物が今の地球上にはいます。それは何ですか。文章中からぬき出して答えなさい」

「37 バドミントンは、インド生まれって本当なの？」の単元

(本文)

「イギリス人の将校」→「イギリス人の兵士」

「ビューフォードきょうという貴族」→「ボーフォートきょうという貴族」

「一八九八年に、イギリスで第一回全英バドミントン選手権」

→「一八九九年に、イギリスで第一回全英バドミントン選手権」

(本文追加・最終段落)

「今では、マレーシアやインドネシアなど、アジアの国々で人気の高いスポーツになっています。」

「39 土星のリングは、どうなっているの？」の単元

(本文)

「一六一〇年、イタリアのミラノでのことでした。」

→「一六一〇年、イタリアでのことでした。」

「土星は六十個以上の衛星を持っています。」

→「ちなみに、土星は二七〇個以上もの衛星を持っています。」

「40 海王星では、台風のような風が吹いているって本当なの？」の単元

(本文)

「海王星の衛星トリトンは、直径がおよそ六千キロもあり、太陽系でいちばん大きな衛星です。なにしろ、トリトンと火星は同じくらいの大きさなのです。」

→「海王星の衛星トリトンは、直径がおよそ二七〇〇キロメートルあり、太陽系で大きな衛星の一つに数えられます。」

「トリトンとだいぶ離れたところを回っているもうひとつの衛星、ネレイドは、奇妙なことにトリトンとは反対方向に回っています。この不思議な衛星のき道については、トリトン分れつ説もあります。」

→「また、トリトンからずいぶん離れたところにあるもうひとつの衛星、ネレイドは、大きな円をえがくように海王星の周りを回っています。この不思議な衛星のき道によって、ネレイドが海王星にいちばん近づくとときと、いちばん遠ざかるときとで、七倍もの距離の差がうまれます。」

(設問)

問4

「海王星の衛星「トリトン」は、どのわく星と同じくらいの大きさなのですか。」

→「海王星の衛星「ネレイド」は、どのように海王星の周りを回っていますか。文章中から十二字でぬき出して答えなさい。」

「42 空気が宇宙に広がらないのはなぜ？」の単元

(本文)

「ところが、最近では、酸素が使われる量は増えているのに、海がよごれたり木がたくさん切られたりして、作り出せる酸素の量が減ってきており、大きな問題になっています。」

→「ところが、最近では、海がよごれたり木がたくさん切られたりして、酸素を作り出す環境がこわされてきており、世界的な問題になっています。」

(設問)

問7

「最近になって、作り出される酸素の量が減ってきているのはなぜですか。文章中のことは使って、二十五字以内で答えなさい。」

→「「酸素を作り出す環境がこわされてきている」というのはどういうことですか。そのことが具体的に述べられているところを探し、「いること」につながるように、文章中から二十字でぬき出して答えなさい。」

「43 どうして星の色にはちがいがあるの？」の単元

(本文)

「天王星や海王星が青緑色なのは、アンモニアやメタンのガスが、火星とは逆に、赤い色だけをはねかえさないからです。」

→「天王星や海王星が青緑色なのは、メタンのガスが、火星とは逆に、赤い色だけをはねかえさないからです。」

「44 星座はどうやってできたの？」の単元

(本文)

「ギリシアの詩人アラトスの本には四五の星座が」
→「ギリシアの詩人アラトスの本には四十四の星座が」
「一五九二年に、フランスのモリノーが」
→「一五九二年に、イギリスのモリノーが」

「45 スペースコロニーって何なの？」の単元

(本文)

「ラグランジュ点とは、約二〇〇年前に物理学者のラグランジュが発見した」
→「ラグランジュ点とは、約二五〇年前に物理学者のラグランジュが発見した」

・誤植修正, 表記の変更

「住む」→「すむ」(人以外の場合)

「治らない」→「治らない」(誤植) (p.36)

「えさ」→「エサ」(表記統一) (p.46)

・その他の修正

本文3行目「呼吸が、規則正しく」の一文より改行 (p.30)

本文23行目「でも、中耳の耳管は」からの改行を取りやめ、「トンネルの中では、」と同じ段落に修正 (p.34)